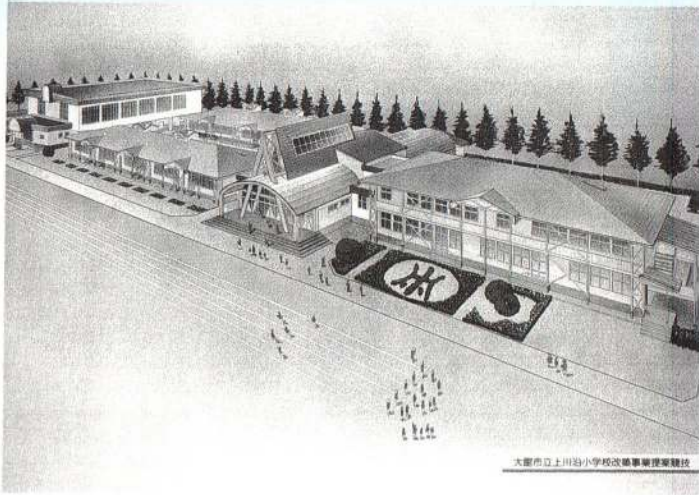


上川沿小学校新校舎

設計コンペで

最優秀案が決定



大宮市立上川沿小学校改築事業建築競技

来春着工、

10年4月から新校舎

市が移転改築を計画している上川沿小学校。その建設にあたって市では、より画期的な計画案を求めるため今年六月に提案競技（コンペ）説明会を実施しました。

その結果、八点の応募があり、審査委員会が第一段階審査、第二段階審査を行って、「恒谷・米沢設計共同企業体」の提案を最優秀案に選定しました。市ではこれを受けて、同案を採用することを決定。今後はこの案をもとに、本格的な設計作業を進めることとなります。設計は来年三月までに終了

する見込みで、その後、文部省の補助事業採択の内示を待って六月ごろから建設に着手、十年春には新校舎で授業が始まることとなります。

上川沿小学校では、移転改築に伴って学区の見直しも行われ、従来の学区に加えて城南小学校学区の一部も編入されることになっています。これにより、同校は児童数二百五十人規模の小学校に生まれ変わります。

提案競技の要項には新校舎（体育館を除く）を木造とすることが盛り込まれていましたから、この春完成した雪沢小学校に続いて、上川沿小学校も木の香りが心地よい校舎になりそうです。新しい校舎で新しい友達といっしょに学び、遊べる日が来るのは約一年半後。期待は今から膨らみます。

設計コンペの作品

3点を公開します

採用案に選定された作品と、コンペで第二段階審査の対象となった作品、計三点を公開します。興味をお持ちのかたは気軽においでください。

とき

8月19日（月）～8月23日（金）

9時～正午・13時～16時

ところ

市役所建設部2階 男子休憩室

☎ 49-33111

（内線311）

市長リポート

No. 119



急速に進展するまちづくり
そのハード面とソフト面

時代の流れは刻一刻と変化します。法制度の改正、経済情勢の変動、農協の合併にしてもそう。その流れに従って、まちづくりの重点ポイントも、日々変化します。

時代の流れを敏感に察知・分析して、施策に反映していくことが、これが、まちづくりにおいて行政が担う役割です。

そして、その施策を住民の皆さんにご理解いただけるような形で調整を図りながら、時代の流れに沿った変革を促していくこと、これが、もう一つの大事なことです。

今、大館では、複数の大きなプロジェクトが急速に、しかも皆さんの目に見える形で展開しています。短大、空港、ドーム、福祉エリア、バイパス整備に代表される地方拠点都市地域づくりなど。ハード面からのまちづくりは、ここ数年のうちに一気に開花することでしょう。しかし、それがもし住民の声をも含めたソフト面なしに進むまちづくりであったならば、たとえどんなに有益な施策であっても、実の伴わない、虚しいものになってしまいます。なんのためにまちづくりを進めるのか、その根本原理を考え、みてください。そう、行政に課せられた使命とは、住民の為を図ることにほかならないのです。けっして行政の独りよがりであってはなりません。

今この時も、時代は流れています。それに呼応して、行政は様々な提案を皆さんの前に示していきます。ソフト面のまちづくりはそこからスタートするのです。皆さんと十分に話し合って、結果を施策にフィードバックしていくことが大切です。行政と住民が一緒になって、実のあるまちづくりを実現しましょう。

小畑 元